

令和元年度事業について

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens（略称 JABG）
- 2：設立等 昭和41年4月11日（法人成立の年月日）
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
（定款第3条）
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。（定款第4条）
（1）植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
（2）植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
（3）植物多様性の保全活動
（4）植物園に関する支援
（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外事情調査

募集人数が集まらず中止。

2. 植物園概要

正会員のデータ更新調査は実施せず、次年度に延期した。

3. 国際活動

上海で開催された中国国際園林景觀産業貿易展示会（2019年5月28～30日）で岩科会長が基調講演を行った。

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

正会員23園からの情報をもとに種苗交換植物リスト（分譲255種を掲載）を作成、リストには植物多様性保全事業における「絶滅危惧植物種の種苗交換」を一緒に掲載し、正会員に斡旋を行った。「絶滅危惧植物の種苗交換」は、種子保存拠点園である環境省新宿御苑がとりまとめとリスト作成（リスト提供園数10園、58種掲載）を行い、リスト小冊子を正会員に2月に配布した。

2. 植物多様性保全拠点園事業

絶滅危惧植物保有状況調査

5年ごとに行う保有状況調査（第4回保有調査：2018年開始）を継続中。54回仙台大会にて経過報告を行った。

絶滅危惧植物保全データベース

データベース分科会を1回開催。データベース入力促進を呼びかけ、環境省連携事業での収集データと連動して登録種数を増やした。各植物園が登録したデータは絶滅危惧植物保全データベース分科会でスクリーニングしてから公開。登録総数2,224種中、生育特性情報掲載700種。

絶滅危惧植物の情報取り扱い検討

植物園における希少植物等の情報管理に関する意識と安全性向上のため、種苗交換時に「絶滅危惧植物の情報取り扱いガイドライン」を配布し周知を図った。

植物多様性保全拠点園ネットワーク活動

・種子等採集と種子保全拠点園（新宿御苑・沖縄美ら島財団）で絶滅危惧植物の種子保存を行った（令和元年度追加種48種）。

・ニュースレター29号（9月）、30号（12月）、31号（2月）を発行した。（8ページ、1000部印刷、PDFを協会ホームページに掲載）。

・関東拠点園会議を開催：7/11、1/21（新宿御苑）

- ・中部植物多様性保全拠点園連絡会議を開催：9/24（白馬五竜高山植物園）
 - ・西日本拠点園交流会（3/20、大阪市立大学理学部附属植物園で開催予定だったが新型コロナウイルス感染症対策のため中止）
 - ・絶滅危惧植物の種苗交換：10園から58種の提供があり、斡旋を行った。
- 外来植物対策

外来種対策分科会において、特にオオキンケイギクの実用的な同定方法の調査継続を行い、その成果発表及び広報活動として54回大会研究発表・ニュースレターで報告した。

3. ナショナルコレクション活動の展開

委員会を2回開催（5月23日、11月10日）現地審査を3件実施していずれも審査に合格した。仙台大会にて認定証授与（「巨椋池由来のハス」宇治市植物公園）を行った。正会員以外からのナショナルコレクション申請の受付を開始した。申請書類等を整備し、認定コレクション3件をWEBページに公開した。第17回植物園シンポジウム「ふるさとの植物を守ろう」ナショナルコレクション - 貴重な日本の植物を後世に伝える（11月10日、新宿御苑）を開催した。なお、事業の一部は公益財団法人山口育英奨学会の自然環境保護活動助成を受けて実施した。

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成7年から継続、令和元年度の寄託依頼植物数61株、令和元年度末の保護育成管理園27園、年度末の総保護数3,849株。

5. 環境省連携事業

29年度から継続して環境省より「希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託、「環境省連携事業」として実施した。本事業は植物多様性保全委員会内に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下の4項目について実施した。国内希少野生動植物種等の生息域外保全手法の検討、国内希少野生動植物種等の生息域外保全の実施、種子保存に関する検討、生息域外保全情報管理システムに関する検討。

6. 「オガサワラグワ里親計画」共同事業の推進

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターと小笠原村、当協会の共同事業として「オガサワラグワ里親計画」の2年目。6園の新規里親申込があり、各園で分散してオガサワラグワを生息域外保全し、普及啓発に資する活動（広報、苗木受渡し式等）に取り組んだ。

- ・令和元年度末の里親：7園（神代植物公園、環境省新宿御苑、熊本大学薬用植物園、武田薬品京都薬用植物園、尼崎都市緑化植物園、東京薬科大学薬用植物園、名古屋市東山植物園）

7. その他、生物の多様性保全に関する活動

環境省との基本協定書に基づく事業

- ・環境省連携事業（野生復帰事業・令和元年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務）を実施した。

「国連生物多様性の10年日本委員会」の広報等への協力を行った。

(3) 学術や文化の振興

1. 第54回大会行事

担当：東北大学学術資源研究公開センター植物園

会期：2019年5月23日(木)～25日(土)

会場：東北大学(災害科学国際研究所、青葉山コモンズ)

参加者：56園 154名(来賓等含む)

実施内容

- ・第54回定時総会
- ・協会表彰(4名) ・ナショナルコレクション認定証授与(1件) ・分野別会議
- ・委員会活動報告(経済産業省「寄託管理事業とワシントン条約」、植物多様性保全委員会・ナショナルコレクション委員会・教育普及委員会・植物園シンポジウム企画委員会・国際交流推進委員会・研究発表委員会)
- ・意見交換会
- ・植物園研修：東北大学植物園、東北大学薬学部薬用植物園、仙台市野草園
- ・研究発表会 日時：令和元年5月24日(金)9:30～12:15
内容：口頭発表5題、ポスター発表16題(発表要旨は協会誌54号に掲載)

2. 植物研究会・技術者講習会

第1回技術者講習会

担当：金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬科学類附属薬用植物園

日付：令和元年7月5日(金)～6日(土)

場所：白山高山植物園(石川県白山市)、金沢大学(石川県金沢市)、北陸大学薬学部附属薬用植物園(石川県金沢市)

参加者：38名

内容

1日目：白山高山植物園

2日目：講演 中野真理子(石川県立自然史資料館)

見学 金沢大学薬用植物園

北陸大学薬学部附属薬用植物園

第1回植物研究会

担当：白馬五竜高山植物園

日付：令和元年9月24日(火)～25日(水)

参加者：研究会37名(うち植物園関係者20名)、講演会80名

テーマ・内容

- ・高山植物を中心とした絶滅危惧種の種子収集および栽培の報告
- ・民間植物園としての集客、展示の工夫、教育普及への取り組みの報告
- ・全国的に有名な梅池自然園の視察、最新のビジターセンター見学
- ・講演会『高山植物を、守り、育てる、最前線』

見学・視察（白馬五竜高山植物園、梅池自然園、梅池ビジターセンター）

令和元年度中部植物多様性保全拠点園連絡会議を併催で開催した。

3. 「日本植物園協会誌 第54号」

日本植物園協会誌第54号（A4判120ページ、480部）を発行した。会員への配布のほか、全国の都道府県立図書館に寄贈した。

4. 分野別活動

第1回目は各分野とも大会開催時に実施

第1分野（第55回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

担当：大阪市立大学理学部附属植物園

日付：令和元年12月4日

参加者：5園5名

内容：大阪市大植物園が進める近畿地方の絶滅危惧植物保全の活動場である、鳥羽市菅島の蛇紋岩地帯での植物観察（講師：山脇和也） 各園活動状況の意見交換

第2分野（第37回国立植物園運営会議）

担当：安城産業文化公園デンパーク

会場：アンフォーレ本館、安城産業文化公園デンパーク（愛知県安城市）

日付：2019年10月24日（木）～25日（金）

参加者：25園57名

テーマ：「植物による集客戦略 ～魅せ方のヒント～」

講演1「感動をお渡しするために」

はままつフラワーパーク 理事長 塚本こなみ

講演2「デンパークにおける植物の魅せ方」

（公財）安城都市農業振興協会 緑地係長 岩田 政文

講演3「データベースによる植物データの見せ方・魅せ方」

東京大学大学院総合文化研究科 倉島 治

第3分野

担当：白馬五竜高山植物園

会場：エスカルプラザ（長野県北安曇郡白馬村）

日付：10月2日～3日

参加者：6園11名

テーマ：「植物園において、観光的な要素をどのように形作っていくか」

・白馬五竜高山植物園（取組・展示等工夫、絶滅危惧種保全活動等の紹介）

・白馬の山岳観光開発の先進的事例の視察（白馬エリアのスキー場夏期利用の最新事例紹介）

第4分野

日付：2019年9月21日（土）

場所：北里大学（第66回日本生薬学会会場）

参加者：13名

議題等：1) 技術者講習会、2) 薬草ガイドブック改訂、3) 植物園保有植物調査、4) その他

施設見学：国立科学博物館附属自然教育園

：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

事業並びに関連団体等との積極的連携(共催等)

1. シンポジウム

第16回植物園シンポジウム「大江戸ハーブ物語」

日付：2019年8月11日(日)

会場：東大農学部弥生講堂一条ホール

共催：公益財団法人東京都公園協会、公益社団法人日本園芸文化協会

後援：公益財団法人平賀源内先生顕彰会、養命酒製造株式会社

特定非営利活動法人ジャパンハーブソサエティ

参加者：306名

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会からの助成を受けて開催
トークイベント

1. 「江戸時代の奇才 平賀源内に学ぶ大江戸ハーブ物語」

講師：小笠原左衛門尉亮軒、森田宏、酒井英二

2. 「真夏の競技会に活かす現代のハーブ」

講師：森田宏、酒井英二、邑田裕子

粹曲の演奏

「江戸のラブソング(粹曲)」音曲師：柳家小菊

第17回植物園シンポジウム ふるさとの植物を守ろう

「ナショナルコレクション - 貴重な日本の植物を後世に伝える」

日付：2019年11月10日

会場：環境省新宿御苑

後援：環境省自然環境局新宿御苑管理事務所

参加者：73名

第1部 認定コレクションの紹介と活動報告

「武田薬品京都薬用植物園命名ツバキ品種群」

武田薬品工業株式会社京都薬用植物園 小島正明

「神代植物公園サクラソウ品種コレクション」

神代植物公園 園長 飯田有貴夫

「巨椋池(おぐらいけ)由来のハス」

公益財団法人宇治市公園公社 宇治市植物公園 柳 明宏

「植物と植物文化を保全する」

さくらそう会 世話人代表 鳥居恒夫

第2部 皇室の伝統園芸を受け継ぐ「新宿御苑菊花壇」見学会

第3回教育普及ワークショップ

期日：2020年1月27日（月）～28日（火）

会場：豊橋総合動植物公園

参加者：30名（講師含む）

【第1日目】

テーマ【SDGsに関連した学習プログラムの考案】

- ・講演「ICOM京都大会など博物館の世界的動向・SDGsと植物園」林 浩二（千葉県中央博物館）
- ・ワークショップ「SDGsと関連する教育プログラム」
- ・日本動物園水族館教育研究会第60回柏大会参加報告

【第2日目】

テーマ【連携を通じて地域課題に取り組む教育普及活動】

事例紹介

- ・「豊橋総合動植物公園における連携事例紹介」石尾雪乃（豊橋総合動植物公園）
- ・「静岡市立日本平動物園における多主体連携の取り組みから見えるもの」
服部乃利子（静岡県温暖化防止活動センター）
- ・「豊橋ユネスコ協会の活動事例と植物園との連携の可能性」渡邊 正（豊橋ユネスコ協会）
- ・植物園における活動事例の紹介
- ・ワークショップ「地域課題に取り組む教育プログラムを考える」

2. 展示

「新宿御苑みどりフェスタ」（2019年4月29日）に出展した。展示ブース訪問者637名。

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍

- ・日本植物園協会第4分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関する普及啓発を行った。
- ・「薬草ガイドブック 薬草園へのいざない」を全面改訂した（A5判5,000部）。「薬草ガイドブック 野外編」を全面改訂した（A5判7,000部）。制作は第4分野会員園、その他有識者による。

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル、データ貸出等

教育普及の振興・支援を目的として、植物園の多様性保全事業を紹介する既存のパネルや資料について情報整理を行い、各植物園の企画展、巡回展情報の共有にむけ、「貸出可能資料リスト」などの制作を検討した。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」（5月4日）事業

広報素材（ノボリ）と教育普及委員会が作成したポスター2種、チラシ3,000部を利用して広報活動を行った。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

マーク制定の意義を訴え、マークの活用を促進した。

3. 自然災害被災地支援事業

東日本大震災被災地支援のため「花を届ける夢の折鶴プロジェクト」を東京都夢の島植物館が継続して推進した。

(5) 表彰

1. 表彰

木村賞 2名

山方 政樹 氏（京都府立植物園）

熱帯産を中心とした植物導入を行い、多くの種類で日本初の開花に成功した。情報の公開による栽培技術向上や種苗の交換による普及に貢献した。

土居 寛文 氏（兵庫県立フラワーセンター）

200 種 5,000 株という日本最大の食虫植物のコレクションを構築し、普及啓発活動にも大きく貢献した。

植物園功労賞 1名

津久井 孝博 氏（東北大学植物園）

天然記念物を含む植物園の管理だけではなく、アウトリーチ活動や調査研究活動などに長年に渡り大きく貢献した。

坂崎奨励賞 1名

小林 弘美 氏（国立科学博物館筑波実験植物園）

2000 種もの植物の系統保存を行い、シヨクダイオオコンニャクの開花などに尽力した。展示や学習支援活動に積極時に取り組んだ。

: 目的の達成に必要な関連事業

1. 後援及び協賛等

【協力】1件

一般社団法人日本公園緑地協会

令和元年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

【後援】10件

富山県中央植物園

講演会「絶滅のおそれのある富山県の野生生物」

フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

平成 31 年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）

IUCN ラン専門家部会日本支部

12 回「みんなで守ろう 日本の野性ラン」シンポジウム

高知県資源植物研究会

土佐の自然と人々の健康を考えるフォーラム

TSO International 株式会社
レジャージャパン 2019
公益財団法人日本補助犬協会
第7回もっと知って補助犬キャンペーン～ほじょ犬と学ぶ心のバリアフリー～
公益社団法人日本動物園水族館協会
日本動物園水族館協会 種保存会議シンポジウム
クリスマスローズの世界展実行委員会
第18回クリスマスローズの世界展
沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会
令和元年度沖縄国際洋蘭博覧会
淡路夢舞台ミュージアムパーク共同体
淡路夢舞台ラン展 2020

2. ホームページ活用及び広報活動

- ・各事業等の告知等のため、協会ホームページ更新を行った。
- ・ナショナルコレクション事業での認定コレクションのデータベースを掲載した。

3. 諸会議

1. 第54回定時総会

日時 2019年5月23日(木)14:00～15:20
会場 東北大学災害科学国際研究所多目的ホール
議題 第1号議案 平成30年度決算について
第1号報告 平成30年度事業報告
第2号報告 平成31年度事業計画
第3号報告 平成31年度収支予算
第4号報告 社員等の異動状況

2. 役員会・委員会等

【理事会】

第1回臨時理事会 平成31年4月18日(決議省略)
第1回通常理事会 令和元年5月23日(仙台市)13:00～13:45
第2回臨時理事会 令和元年9月4日(決議省略)
第3回臨時理事会 令和元年12月11日(事務局)14:00～17:00
第4回臨時理事会 令和2年2月4日(決議省略)
第2回通常理事会 令和2年3月25日(決議省略)

新型コロナウイルス感染症対策として事務局での開催をせず、決議省略の方法で行った

【執行役員会】(代表理事と業務執行理事による会議)

第1回執行役員会 平成31年4月18日
第2回執行役員会 令和元年8月20日
第3回執行役員会 令和2年1月27日

【監査】

- ・平成 30 年度事業について、平成 31 年 4 月 12 日に岩隈監事、吉岡監事による監査を実施した。

【委員会開催】

- ・植物多様性保全委員会（5 月 23 日 東北大学災害科学国際研究所）
絶滅危惧植物保全データベース分科会（7 月 11 日 新宿御苑）
環境省連携事業担当分科会（7 月 11 日 新宿御苑）
- ・ナショナルコレクション委員会（5 月 23 日 東北大学災害科学国際研究所、11 月 10 日 新宿御苑、メール会議）
- ・植物園シンポジウム企画委員会、将来計画検討委員会（委員が重複するので合わせて実施）
5 月 23 日 東北大学災害科学国際研究所
7 月 2 日、11 月 26 日 (株)エーザイ本社会議室
- ・選挙管理委員会（11 月 8 日、12 月 4 日 事務局）
- ・研究発表委員会（2 月 5 日 事務局、メール会議）
- ・教育普及委員会（1 月 28 日 豊橋総合動植物公園）
- ・国際交流推進委員会（メール会議）
- ・ホームページ委員会（メール会議）
- ・協会表彰候補者選考委員会（3 月 9 日中止、メール会議）

4. その他

【関連団体等との連携、提携、協力】

- 1) ICOM 京都大会組織委員会（委員：岩科会長）に参画し、会議参加、情報交換等の協力をを行い、9 月に開催された ICOM 京都大会に岩科会長が参加した。
- 2) 天皇陛下御即位三十年奉祝委員会、天皇陛下御即位奉祝委員会に参画、岩科会長が出席した。
- 3) 国連総会が定めた 3 月 3 日の「世界野生生物の日」に関連して、環境省と経済産業省が行った普及啓発活動に、パネル展示等で協力した。

令和元年度事業報告 附属明細書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。